

発言者	要 旨
教育長	<p>第2回総合教育会議を始めます。</p> <p>議事の進行は、大府市総合教育会議運営要綱第4条に基づき、教育長が行うこととなっておりますので、今回から私が、進行役を務めさせていただきます。</p> <p>それでは、次第に沿って進めてまいります。</p> <p>まず始めに、岡村市長から御挨拶をいただきます。</p>
市 長	<p>皆さん、こんにちは。今日はお忙しい中、総合教育会議にお集りいただきまして、ありがとうございます。28年の第2回目でございますけれども、10月1日から新しい宮島教育長が就任をされまして、これから御審議いただきます新しい教育振興基本計画を策定していくということで、実質上は今日から新しい体制のもとで、また新たな気持ちで総合教育会議を行っていただきたいと考えております。</p> <p>新しい制度の趣旨にのっとりまして、教育委員会は教育委員会として組織体としてございますけれども、この総合教育会議の方は、私からも意見等は十分出ささせていただいて、皆様方と十分意見交換しながら、大府の子どもたちを、よりよい方向に導いていきたいと思っておりますので、どうかよろしくお願ひしたいと思います。</p> <p>以上です。</p>
教育長	<p>ありがとうございました。</p> <p>では開会に当たり、私からも一言御挨拶を申し上げます。</p> <p>この、教育長の職をいただいて半月が過ぎました。</p> <p>自分で言うのも僭越ですが、大変目まぐるしい日々を過ごしてきたなと思っております。ただ、まだ新教育委員会制度になったという実感はないまま今日に至っております。</p> <p>そんな中で、今日午前中に市の校長会議がありました。私は13校の校長先生方に新教育委員会制度のメリットについてお話をしました。</p> <p>今日お配りしたプリントの中にも載っているのですが、教育委員会と市長部局が太いパイプで結ばれて、ダイナミックにこれから市の教育を進めていくんだというメリットを受けとめて、これからやっていきたいと申し上げました。この制度ができるときに、問題点等も各界で取り上げられていたと思いますが、メリットの方を大事していきたいと思っております。</p> <p>教育委員会がもっている安定性とか継続性とかいうものをきちんと踏まえながら、現場の実態も踏まえながら、市長部局の意向を受けとめていこうと考えております。</p> <p>いよいよ今日から出発だという思いがあります。どうぞよろしくお願ひいたします。</p>
教育長	<p>それでは、次第の「2 議題」に入ります。</p> <p>(1) 新教育長の所信について、私から改めてお話をさせていただきます。</p> <p>教育長が変わったということで、冒頭15分ぐらいお時間をいただいて、私がどんなことを思っているのか、思って生きてきたのか、これからどう生かしていくのかというところを、大変雑駁ですが書き出してきましたので少し触れさせていただきます。</p> <p>施策についてはまだ十分踏まえておりません。今年度は細谷先生が築かれた方向性をきちんと受けとめてやっていくという方向にありますので、施策というよりも、今後に向けて新教育長の思いということで話をさせていただきます。</p> <p>資料No.1をご覧ください。基本のところから押さえをしてみたのですが、学校教育の目標と育てる力そして子どもの姿、学校教育の目標は何なのかというような考え方がありますが、私はこう押さえしているところを書き出しております。どこまでいっても自立でしょう。子どもたちを社会人として自立させる。そして共生、人の世の中で生きていく。そして我が道を、そして社会を切り拓く・創造していく。自立と共生・創造だと考えています。梶田叡一さんという学習指導要領の作成に関わった、今どこかの</p>

発言者	要 旨
	<p>大学の先生をやっておみえになるかなと思いますが、中央の教育についての審議会にも登場された方ですが、梶田叡一さんによると、人は我を生きる、二つの世界を生きると言われていました。我を生きる、我々を生きる、そのことを目標として考えた場合にやはり自立・共生・創造かな、多分大府南中の校訓として刻まれているのかなと思っています。</p> <p>それから、どんな力を育てていくのか、古くから知徳体と言われてきました。そして今、ここ10年近くなるでしょうか、新しい言葉で文科省がこの言葉売り出してききましたけど、「生きる力」と言われますが、私の頭の中では同じです。知徳体を置きかえて、「生きる力」だろうと思っています。「生きる力」の3本の柱がありまして、確かな学力とゆたかな心と健康と体力、やっぱり知徳体だと思います。学力については、いわゆる結果としてはっきり出てくるもの、身に付いたもの、読み書き計算というような表現もされます。あわせて今日大事にしようとしているのが思考力とか判断力とか表現力になるかなと思うのです。もう30年以上前に言われましたが、学力には見える学力と見えない学力があるんだと。数字的にきちんと出てくるのは見える学力でしょう、答えがはっきりしているもの。ところが答えがはっきりしてこない柔軟な思考を持って、こうなのか、ああなのかと考えていく力とか、大きく言うとコミュニケーション力というようなものは見えない学力の部類に入るから、そういう学力こそが大事で、社会が求めている学力なんですとも言われますね。</p> <p>若手の教員が入ってくるのですが、今も市内でも苦しんでいる部分があるのですが、大変見える学力が優秀で採用試験に受かって登場してくるんですが、なかなかコミュニケーションがうまくとれない、心にズシッと響いてくる、休みがちになる、という状況も今の若い青年層の中にはあります。年を経ても、そういうことも起こってくるんですが、そういう見えない学力をどうしていくかという課題があるかと思うんです。そのために、わかる・できる楽しい授業をしていくんだ、学び合いをしていくんだ、この学び合いが大事だと。この学び合う力も見えない学力だと思います。話し合いのためのセッティングをしていく、話し合いへの展開を考えていく。そういうことも見えない学力だと思いますが、ここへ来てICT教育。これもわかりやすい授業をするということだけではなくて、電子黒板・タブレットを通じて子どもたちが話し合いをしていく、その中で培われていくものを私は大事にしたいと思います。またプレゼンテーションの力も時代の要請として求められていますので、そういうものも授業の中で取り込んで、お互いが持っているものを大事にしあう、そういうところにこのICT教育は生きていくのではないかと。確かに三角形の図形の移動とかいろんな基礎基本としてわかりやすい部分もありますが、見えない学力にも大きく貢献をしていきます。評価をどのようにしていくかは、どうやってお示しをするのか課題として受けとめているところです。</p> <p>あと、ゆたかな心です。協力、おもしろい、正義感、反省心、郷土愛、愛国心とあります。かつて大府小学校の校長をしておりました時、愛国心を大事にしたいという団体の方がお見えになって大変熱烈でした。どちらかに傾倒している方々ではなくて、大変熱心で物腰やわらかい集団の方々だったのですが、愛国心を育てる、郷土愛を育てることに異論はないです。ただ物事には順番があります。まずは、私は自分が好きになるという事を大事にしたいと申し上げました。それは自己肯定感につながる場所です。自分が好きでなくてどうして友達が大事にできるでしょうか。友達が好き、自分と友達が出会うこの学校が好き、この学校があるこの町が好き、そしてこの町を抱えているこの国が好き、そういう発想でいるのですがいかがでしょうかとお話をしたことがあります。ゆたかな心の中でいろんな要素があると思いますが、今求められているものは、いじめのない学校にしていきたい、いじめのない学校になるように努力をしています。早期発見・早期解決に努力をしています、道徳の授業が教科化してきます。決まったことですので、現場は、頑張らなくてはいけません。先生の道徳の授業はつまらんとはいわれない努力をしていかなければいけないと思います。それから体験ボランティア活動。公</p>

発言者	要 旨
	<p>民館にお邪魔しましたけれども、本当にたくさんの中学生があちらにもこちらにもボランティア活動に出ていますね。あれが子どもたちのゆたかな心を育てる一つに貢献していると思います。</p> <p>それから健康と体力です。保健体育の授業、食育も大事です。第4の教育とも言われたりもしますが食育。それから学校行事、課外、部活動ですが、体力の問題は学校教育を超えて大きな課題だと思っています。恐らく市長さんが色々なところで市民の皆さんの中に入ってお声を聞かれていると思いますが、体力問題がきつと出てくるだろうと思います。今日の自動車社会の中で、車で送られる子どもたち。親の都合にとっても、とてもいいことなので、ちゃっちゃと子どもが車で運ばれる中で子どもの体力は低下をしています。体力テストの結果を見ると、全国平均、愛知県の平均、そして大府市の平均は劣ってはいないんです。ただ全体が衰えているという中で、学校教育がどこまでどれだけのことをできるか、これも課題を抱えています。</p> <p>今日も午前中の校長会で話題になったことの一つに、小学生の野外教育活動があります。今、大府市は2泊3日で行っています。近隣の小学校は1泊2日で、2泊3日派の校長は1泊2日なら行って帰ってくるだけで自然に触れないのだと。翌日は帰る支度に入るの、行って帰ってくるだけだと。大府市が2泊3日できるということは大事にしたいと。かたや、もう時代が違うという校長が過半数いましたけど、2泊もするので子どもたちが熱を出して病人が何人もいる。逆に1泊なので不登校傾向の子たちに行こうよと声をかけられる。そういうやりとりがありました。また皆さんの中でお声を聞かせていただけたらと思いますが、もう子どもたちの持っている力からすると、小学生のキャンプが1泊2日の時代ではないかという声も出ております。30年前の子どもたちと違うんですという声が出ていますが、また、考えていただく材料にさせていただけたらと思います。</p> <p>求める子どもの姿です。「教育の成果はすぐには出ないとも言われるが、しかし日々学び生活する子どもの姿やふるまいに成長の証が出なければ、学校は信頼を得られない。」私があげたスローガンですが、緒川小学校にいた時には「はつらつ・じっくり・やったあ」、この3要素が子どもたちの中に出てくるように職員は頑張ろうと言いました。同じような方向ですが、大府小学校の時には、「はつらつとした挨拶と返事ができ、元気な歌声にあふれ、人の考えや思いをよく聞き合う子どもたち」、そんな子どもたちの姿を求めていきたいと思います。</p> <p>2番までにしたいと思います。あるべき学校の姿、このことについては、議会の方々に所信表明のときに触れさせていただきましたが、かけがえのない子どもたち一人一人を、教職員が互いの隙間を埋め合える、チーム力に長けた組織で育てていく学校。これはもう10年近くなりますが県が言っていました。子どもが行きたくなる学校、親が通わせたい学校、教師がやりがいをもって生き生きと実践できる学校、こう表現されてきましたし、私もけだしと思います。「ひとりの子を粗末にするとき 教育はその光を失う」。これを街に置きかえて、「ひとりの子を粗末にするとき 街はその光を失う」、そういう思いで教育長職を務めたいと申し上げました。それから組織論です。「私の仕事ではないあなたの仕事でもない 誰の仕事でもない仕事が放置される組織は そこから腐敗する」私の範囲はここまでと範囲限定で学校教育はやっていけません。子どもの変化に気づいて、お互い連携プレーで子どもと向き合っていく、というのが学校現場ですので、それを表現したつもりでいます。</p> <p>3番に当面の方向性を書かせていただきました。(1)から(4)まで新しい学習指導要領の本格実施がやってまいりますので、小学校は平成32年から中学校は平成33年から、それに向けてICTの活用することも含めて、各種準備を今から進めていく必要があるかと思っています。</p> <p>4は、学校論・教育論あれこれ自分の思いをそこに出させていいただきましたので、また目を通していただけたらありがたいなと思います。</p>

発言者	要 旨
	そこまでにしたいと思います。よろしくお願いします。
教育長	それでは、委員の皆さんから何か御質問等ありましたら、お出しただければと思います。
河合委員	はい。
教育長	河合委員、お願いします。
河合委員	<p>今、新しい教育長先生のお考えを聞いて、大変頼もしく御期待を申し上げるわけがあります。人が変わるということは一つの活性化の要因でもあろうかと思っておりますので、とにかく先生の思いが、小中学校の校長さんのみならず下々の先生あたりまで行き渡るように、私どもも努力しなきゃいけませんけれども、みんなで新しい時代の子どもたちを育てるということで頑張っていきたいなというような思いを、先生のお話を聞きながら持った次第でございます。</p> <p>先程お話がありましたように、新しい学習指導要領の改訂作業が行われます。先般、夏の終わりでしたか、中教審の審議のまとめが出ましたので、それに基づいてもうすぐ出ると思っておりますので、そんなことも念頭に置きながら、これから教育行政を進めていかないと間に合わない。先程の先生のお話もありましたけれども、具体的な視点が幾つか出されるようでありますので、私どももそのことに注意しながらやっていきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。</p> <p>以上です。</p>
教育長	ありがとうございました。その他、はい、浅井委員よろしくお願いします。
浅井委員	<p>今、宮島教育長のお話を聞いて私もそのとおりに思ったのが、求める子どもの姿のところでは、はつらつとした挨拶と返事ができ、元気な歌声、これは私事になるんですけど、大学とかで教えていまして、就職率がいいグループというのはどちらかというと、勉強ができるグループもそうですけれど、体育会系で挨拶がびしっとできると。先生を見かけるときちっと立ちどまって、「おはようございます」と、いつも自然に言えるようになっていんです。そうすると、会社の方から見ると、営業とか人と会った時に、きちっと照れずに挨拶ができるというのは戦力になるし、またもう一つはやっぱり体力がありますから、つぶれないということで、とても人気がある。です。先生がさっきおっしゃった数字にあらわれない学力の一つだと思っておりますけれど、その子の将来などを考えた場合、最初から挨拶ができる、返事ができる、体力がある、これはやはり人生を本当に気持ちよく過ごしていくためにはとても大切なことだと思います。ただ、どの学校も挨拶、返事は大事だよとは言っているんですけど、ある程度のところは実行できていると思うんですけど、私の希望としては新教育長という新しいシステムになったんですから、何かアプローチを上からしていただいて、今までよりももっといい状況にしていきたいと思っておりました。とてもすばらしいと思っておりました。</p>
教育長	はい、ありがとうございました。浅井委員でした。意にとめてこれからの施策に生かしていきたいと思っております。その他いかがでしょうか。
	(なし)

発言者	要 旨
教育長	次へ進みたいと思います。 続きまして、(2) 第2次大府市教育振興基本計画〔2017～2020〕～きらきら輝く子どもの笑顔のために～（教育大綱）の策定について事務局から説明をお願いします。
学校教育課長	「(2) 第2次大府市教育振興基本計画〔2017～2020〕～きらきら輝く子どもの笑顔のために～（教育大綱）の策定について」を説明いたします。（以下、資料により説明）
教育長	ありがとうございました。この件につきまして、委員の皆さんは何か御質問等ございませんか。いかがでしょうか。 はい、河合委員をお願いします。
河合委員	20 ページから 21 ページの安心・安全な学校づくりで、その具体的な施策の最初に学校危機管理マニュアルの作成とありますが、現在大府の各小中学校にこれは無いのですか。といいますのは、私が校長を拝命しておった浅田教育長先生の時代に、これを一遍出した覚えがあるんです。私も 1 ページ目だけは自分で書きまして、職員にあと分担させて先進校のものを参考にさせて作らせました。具体的な事業の中に上がっているものですから奇異に感じたのですが。
教育長	はい、その件に関しまして山本指導主事。
指導主事	はい。よろしくお願ひいたします。 各学校の方では危機管理マニュアルを作っておりますが、時代に合わせて、或いは学校での課題に合わせて適宜見直して進めていくという意味でこの言葉を使いましたが、確かに出来上がっているものですので、作成ではなくて見直し或いは充実といった表現が適切かと思ひます。ありがとうございます。
河合委員	ありがとうございました。
教育長	年々見直しをされているということですね。
指導主事	はい。
教育長	はい、浅井委員よろしくお願ひします。
浅井委員	はい、質問ですけど、26 ページからの資料を見ますと、例えば 31 ページ 32 ページのあたりには、体力、運動能力、調査結果の推移と申して本当に細かい数字がここへ載っていますし、体格とかに関しても細かい数字で大府市はどうなんだと、愛知県はどう、全国がどの数字と、ぴしっと書いていますけれど、学力に関しては数字を表わすと競争になってはいけないという理屈はわかるんですけど、全く資料を載せないというのも、ちょっと違和感を感じます。細かい数字を出さないにしても、例えば、全部おおむね良好でずっときていますよとか載せてあげると、見る人も安心できるのではないかとも思ひ、これを見ると意図的に全く触れてない気がするんですけど、その辺はどんなものなんでしょうか。

発言者	要 旨
教育長	はい、そのあたりの事情を話していただこうとすると指導主事でいいですかね。 はい、山本指導主事お願いします。
指導主事	お願いいたします。 確かに体力があれば学力というのがバランスのある記載という考え方もあるかと思いますが、学力については何を指標とするのかということで、実際には、少し前から始まった全国学力学習状況調査の結果、これは非公表なものですから載せるわけにはいかないんですけれども、例年、年度初めには学力調査はやっておりますが、その通知という結果ではなくて、どういう状況か、全国的に見てどうかということはあるものですから、どういった形で載せるかということも含めて検討はしていきたいと思っております。
教育長	はい、内藤教育部長お願いします。
教育部長	これは成果指標を考える上でも色々紆余曲折もありまして、非常に議論になったところでございます。24 ページを見ていただきますと、2 番目の個に応じた教育の推進の 1 番上の確かな学力の育成というところに、全国学力学習状況調査で全国平均に達している科目数の割合、全体で小中それぞれこれだけの科目があるうち、全国平均に達している部分は増やしていこうという指標を持ちました。それに対応する資料が体力は比較の中であるんですけども、学力の方が無いということですので、これにつきましてはこの指標に沿った形のこれまでの経年の経緯が見えるようなものを少し準備させていただこうと思っております。ありがとうございました。
教育長	はい、よろしかったでしょうか。はい、永田委員お願いします。
永田委員	はい。ページ 24 なんですけども、もしかしたら前にも同じような質問があったかもしれないんですけど、1 番目の命を大切に作る豊かな心の育成というところで、現状値に対しての目標値の設定があるんですけども、この数値のパーセンテージの決め方といいますか、何かあってこういう数字になっているのでしょうか。先程教育長のお話にもあったんですけど、見えない学力という部分でいうと、自分には良いところがあるというのはやっぱり自分自身を好きにならなきゃいけないとか、人が困っているところを見かけたら助けてあげるっていうのは思いやる気持ちだとか、友達を好きになるというところで、すごく大事なところかなと思うんですけども 85%と 90%が目標値というのは、どういうふうに決められたのかなというのがあれば。
教育長	はい、いかがでしょうか。はい、大島課長お願いします。
学校教育課長	こちらの方の設定につきましては、現状値から高ければ高いほどいいんですが、ある程度目標達成可能なところで決めさせていただいております。思ったより子どもたちの自己肯定感というのは大府の場合はちょっと高いというところがありまして、全国平均より高かったと思うんですが、もうちょっと高く上がるといいなということで、この数値を設定させていただいておりますのでよろしくをお願いいたします。
教育長	はい、ありがとうございます。よろしいですか。

発言者	要 旨
永田委員	<p>はい、先程教育長が言われたように見える学力と見えない学力というところでいうと、学力の数値だとか、評価、あと体力的なものっていうのは数字で出てくる部分があって、すごくわかりやすく、ある意味対策もたてやすいところがあるのかなと思うんですけども、その見えない学力という部分で、基本理念にもあります「心身ともに健康で知恵と愛をもつ児童生徒の育成」と、本当に心の豊かな生徒児童の育成っていうのが、僕は学力と体力に対しても、一番根幹をなすものかなと思っているので、やっぱりそこを本当に私たちが真剣に考えて地域の方と御父兄の方と一緒に考えて上げていかないと、なかなか全体として上げていくことが無理なのかなっていうのを思ったものですから、逆にちょっと数値が低いのかなという気がしたもので聞かせていただきました。ありがとうございました。</p>
教育長	<p>はい、ありがとうございました。内藤部長お願いします。</p>
教育部長	<p>今話題になりました命の大切さを実感させる教育の推進という項目につきましては、資料としてお配りしましたこの全国学力学習状況調査のうちの学力でない方の質問紙の質問項目にこれまでも継続的に指標として押さえられているところですので、それを参考にさせていただきます。目標値の考え方でですけども先程課長も申しましたように、本来目指すは100%なんですけども、実現不可能な数字や実現が容易に達成できる数字でもいけませんので、全国平均であるとかそういうものを参考にさせていただきまして、大府市として少し背伸びをするようなところの目標値で考えさせていただいておりますので、よろしく願いいたします。</p>
教育長	<p>はい、よろしかったでしょうか。その他御質問等ございませんか。</p>
河合委員	<p>ちょっとよろしいですか。</p>
教育長	<p>はい、河合委員お願いします。</p>
河合委員	<p>その見える学力・見えない学力論にコミットするわけではないのですが、学校教育法第30条第2項で法律が出たとき、何が書いてあるかと言いますと学力を法律で規定したわけです。学力3条件。1番目は、知識理解というのが習得と書いてあったか、2番目は、思考力・判断力・表現力。それは同じですが、3番目に、主体的に学習に取り組む態度。これを法律に入れるときに随分議論があったそうです。私の今聞いているところによりますと、そんなに専門的に勉強しているわけではありませんが、今度の学習指導要領は、今は4観点でありますけども、この法律に基づいて3観点にする。そうすると、3番目の主体的に学習に取り組む態度。今論議されているのは、学びに向かう力と人間性だと思うんですけど、その学びに向かう力、これを見えないとか見えるとかそういう範疇ではなくて、実際に見えないもの、かつてCMで流れました「思いは見えないけれど、思いやりは見える」。これは宮澤章二さんの何とかという詩の1節だと思うんですが、先程の教育長さんのお話にありましたように、子どもたちの生活の中での姿とか振る舞い方だとか、それは生き方に関わることでありますけれども、やはり、見える、見えないということではなくて、それを行動や態度で表現、出てくるところをちゃんと見ていくということは、これからは大事だろうと思います。もう法律で学力が規定されたなんていうのは、今までなかったわけではありますが、学力というのはどういうものかというのは学校教育法第30条第2項できちっと書いてあるわけです。ですから私どもも、それにも則りながら、ものを考えていくことが大事ではないかというのは私個人の考え方です。</p>

発言者	要 旨
	以上です。
教育長	はい、ありがとうございました。 見える学力、見えない学力。見えない学力は見えないままじゃいけない、可視化していこうという方向できていると思います。今の河合委員が言われた宮澤章二さんのお言葉があります、「確かに心は誰にも見えない。けれど心遣いは見えるのだ。それは人に対する積極的な行為だから。同じように、胸の中の思いは見えない。けれど思いやりは誰にでも見える。それも人に対する積極的な行為なのだから。」とあります。見えないものを見るように、また受け取る、指導していく大人の側の力にもよるかなと思いますが、その他いかがでしょうか。
河合委員	はい、ありがとうございました。 教育長さんがちゃんと用意されており、さすがだと感心しております。以上です。
教育長	ありがとうございます。はい、浅井委員お願いします。
浅井委員	今の永田委員の続きになりますけど、24 ページで私が思ったのは、個に応じた教育の推進のところの、個を大切にした教育の充実、学校の授業がわかると回答した児童生徒の割合が、小学校が現在 89.8%のところ目標値が 90%というのは、95%ぐらいにできないものでしょうか。中学校の方が 79%、いわゆる 80%のところを 90 に上げているのであれば、0.2%の上昇というのはちょっと悲しいものがあって、ICTを利用して頑張るのであれば、もうちょっと上げたいなと思ったんですがどんなものでしょう。
教育長	はい、大島課長お願いします。
学校教育課長	今、浅井委員のお言葉を受けまして、再度ここは検討させていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。
教育長	けだしですね。その他いかがでしょうか。西村委員お願いします。
西村委員	すいません、よろしくお願いします。 先程その目標値のことにも関連するんですけども、24 ページのいじめ・不登校・虐待への対応のところの不登校率の 32 年の目標値なんですけども、小学生が 0.3%と中学生が 3.0%ですけど、28 ページの不登校児童生徒数の推移の方を見させていただくと、小学校でも平成 16 年に一番低いところ 0.24 とがあるんですけど、ゼロにすることは難しいんですが、もっと減らすというか、先程宮島教育長もおっしゃったように、あるべき学校の姿で子どもが行きたくなる学校というのを目指して、今からスクールサポーターとかも増やしていただいて、子どもたちが、もっと学校に来て楽しいと思えるような学校づくりを目指していくので、目標値は本当にその一番低いところで設定していただけたらいいのかなと思いますけどその辺どうでしょうか。
教育長	ありがとうございました。事務局いかがですか。はい、大島課長。
学校教育課長	こちらの目標値の設定につきましては、不登校率については本当に何が原因かということもよくわかっていないという現状もありまして、小学校から中学校になると特に中

発言者	要 旨
	<p>学2年生ぐらいになると急に高くなるということもありまして、3.58%から3.0%ですと0.58 なのですが、小学校のほうの倍ぐらいにはなるというのがあります。</p> <p>ただ、今西村委員が言われましたように、このところは本当に全体の検討課題ですので、再度レインボーハウス等と相談して目標値を設定してまいりたいと思いますので、よろしく願いいたします。</p>
西村委員	はい、ありがとうございました。
教育長	<p>よろしいですか。ありがとうございました。再検討ですね。</p> <p>その他いかがでしょうか。</p>
	(なし)
教育長	<p>無いようですので、第2次大府市教育振興基本計画（仮称）大府市きらきら教育推進プランについて事務局は策定を進めてください。十分にいただいた御意見を参考にして検討すべきところは検討したということになります。よろしく願いします。</p> <p>次に、(3)、児童生徒の学習について事務局から説明をお願いします。</p>
指導主事	「(3) 児童生徒の学習について」を説明いたします。(以下、資料により説明)
教育長	はい、ありがとうございました。いかがでしょうか。御質問等よろしく願いします。
浅井委員	よろしいでしょうか。
教育長	はい、浅井委員お願いします。
浅井委員	<p>まず1点質問があるのですが、この学力調査の分析結果は全てがおおむね良好であるという分析なのですが、これは実際の話、全国とか愛知県の他の市町村とかで、どのくらい振れ幅があるのでしょうか。ほとんどのところが、おおむね良好でまとまっているのか、それとも全国で見ると、例えば大変よくできましたというものもあって、全然だめですよってところもあって、散らばっている中でのおおむね良好なのか、ほとんど8割9割方が、全部おおむね良好に入っているかどんな傾向なのでしょうか。</p> <p>私がちょっと勉強不足でわからないので教えていただけますでしょうか。</p>
教育長	はい、土井指導主事でいいですか。
指導主事	<p>はい。お願いいたします。</p> <p>実際全国の状況で見てみたときに、おおむね良好であるというところは、全国の半数以上がそのぐらいのところになっております。もっと上の、もっと優れているというところも、実際に新聞等で出ますけども有ります。</p>
教育長	よろしいでしょうか。河合委員お願いします。
河合委員	浅井委員さんが御指摘になったように、これは外へは出さないんですか、各学校に教

発言者	要 旨
	育委員会の分析として出すんですか。
指導主事	こちらの文面については教育委員会の内容として、今回はこの分析のみですので、これに対してあともう一つ具体的に改善の手だてのようなものについても、このようなことに気をつけてほしいということを載せて各家庭に配布はしております。
河合委員	<p>先程の振興計画に分析と対応とか書いてありました。だから分析はこれでいいんだけど、私は学生時代から先生に進められて使っている国語辞典は、三省堂の明解国語辞典なんですが、良好っていうのは、大体よくて数値が期待どおりであるというような意味だろうと思うんです。私は新聞の情報しかわかりませんが、昨年よりも愛知県の場合は大分上がってきた。ですが、まだ新聞の報道によりますと、愛知県は中学校は大変よくできている、以前に比べたら随分力がついて先生方が頑張ってくださいなと思うんですが、県の場合は、国語の問題は全国 40 位。B問題も 40 位。算数の基礎基本のA問題が 41 位。算数のB問題も 30 位となっているんです。とりわけ国語が低いわけで、これは基礎と活用両方とも低いわけでありますので、このへんの対応を大府市として私はいつも申し上げますように何もトップにならなくてもいいけども、やっぱり大教育愛知は、真ん中ぐらいからちょっと上ぐらいにいないと、知事さんも恥ずかしいだろうと勝手に思っているんですが、大府市の教育委員会、また指導主事として、このあたりはどういうふうにまず捉えて、どのように手を打とうとしているのか、そういうビジョンがあれば教えていただきたい。県全体で見れば、なんせ国語は昨年 47 位でしたから、そこから 7 番も上がったならば大分上がったというふうに見えるのですが、私は何も 1 番なるってそういうことを考えているわけではなくて、ほどほどに力がついているということをこうやって新聞で公表されますと、保護者の方が心配になるのではないかと私は思うんです。ですから大府市教育委員会としても、こういう現実を踏まえながら少しずつ改善するようなことを考えていかなければいけない。それが対策でしょうけども、そんなところがもし何かありましたらお教えていただきたいと思います。</p> <p>以上です。</p>
教育長	はい、ありがとうございました。いかがでしょうか。 山本指導主事お願いします。
指導主事	はい、お願いいたします。結果が出ますと先生もご承知のように、どこまで出すかということは、国も含めてかなりもめたことで、今言われたように全国と比べてとか、愛知県がどうかということが話題にはなります。確かに悪いよりは、比べてみていいにこしたことはないし、そうあるべきだとは思っていますが、このテストの趣旨が、きちんと子どもたちがつけるべき力をつけているところから始まっているものですから、できる・できないということももちろんありますけれども、今時代が求めている力に対して、子どもたちがどう力をつけているか、それに対して指導者はきちんと指導しているか、そういったことで活用していくのがいいとは考えております。ここに分析の結果もありますので、先程の話にもありましたけれども、子どもたち全体としては、いろんな情報を取り入れて考えることはできるけども、出すという表現するという方向で全体としての課題があるのではないかとということもありましたので、そういった力をこれから新しい指導要領の策定も含めまして、考えて対策を講じていきたいと考えております。
河合委員	よろしいでしょうか。

発言者	要 旨
教育長	河合委員お願いします。
河合委員	<p>今、土井指導主事さんが発表とか表現力云々っていうことをおっしゃいましたけど、こここのところずっと協議研究発表会で、各学校の研究資料をいただいてみておりますと、そういう研究をずっとやっているじゃないですか。それ以上何を指導主事として要求するのか。そのやっている方向がこういうふうにいけませんよということ言うのか。その分析も先程のお話を聞いておって、大府の学校訪問で見せていただいた授業に関する限り、自分の考えをみんなの前で発表して、先生方はそれぞれ工夫をされて子どもたちの考えを表へ出すような努力を大分やっておったと思うんです、私の感じですけどね。それ以上をもっとやってくださいと言っても、私、現場でおる時に、根本的な対策を打つことによって少しは前に行くのか。例えば、B問題、A問題ありますけれども、今愛知県の場合も担当指導主事を置いてやっている。そしてしかるべき指導者を迎えながら、そういう委員会を作ってやっている。具体的にこの場で市長さんがおみえになるところで、突然言っとっちゃいかんですけれども、今の新しい学習指導要領の方向とか、そうしたことをきちっと分かっている古いベテランの研究者に来てもらってもだめだと思いますので、この年度に限らず、少しきちっとした指導者に一遍話をさせていただきながらこういう現状ですということをお指導いただくということも一つ手かなと、今お話を聞きながら思っておったわけです。</p> <p>以上でございます。</p>
教育長	はい、ありがとうございました。浅井委員、よろしくお願いします。
浅井委員	<p>私、大学時代、塾の先生とか家庭教師とか色々やっていたんですが、多分このおおむね良好で当然平均点の評価だと思うんですけど、これを上げるためには、例えば書くことに関してよくあるパターンは、時間がある小学校の低学年とかのうちに、ほんの短い日記でもつけさせる。例えば、今日楽しかったこと、今日悲しかったこと、今日おもしろかったことを一言でもいいから自分の気持ちを手で書く。ICTとかは定型文をポンと打ち込むだけという感じになって、自分の手で書くという作業に小さいうちから慣れさせないと、なかなかずっと書けないんですよ。だから、自分の思いを書くというのは中学校になってからじゃなくて、小学校の時に、今日何が楽しかったとか、今日何に腹が立ったとか一言でもいいから日記みたいな長いものじゃなくて、短いものをちょっと書かせるというような事を勧めると、書くということに対するアレルギーは無くなるのではないかと思います。</p> <p>それからもう1点、平均点を上げる。荒っぽい失礼な言い方かもしれませんが、90点の生徒を110点に上げることができなくても、今まででも98点とっていた子を100点にしるといって、もうそれ以上、上はないんですけど、持ち上げるのは思ったほど難しくないと思います。上を伸ばすというのは大変大切なことなんですけれども、それを成し遂げたからといって平均点は上がるものではないと思います。例えば30点の子を50点に上げるというのは思ったほど難しくないと思うんです。ですから最初に教育長先生がおっしゃった、楽しい授業・わかる授業・できる授業、それで平均点が取れなかった子たちを平均に近づけられれば、ぐっと平均は上がるはずなんです。先日お檀家さんで大府市内の小学校2年生の主任をなさっている先生のところに行った時に、ICTっていいんですかと聞いたら、ICTは素晴らしいって言われて、何がいいんですかと聞いたら、今まで聞いてくれなかった子が、興味を持って聞いてくれる場面が結構増えた。だから、できる子には関係ないかもわからないけれど、興味を持ってくれる子が増えたのは素晴らしいから使わなきゃだめですよってICTの良さを熱弁されて、こういう先生が増えればいいなと思ったんですけど、平均点を一番簡単に上げるには、平均</p>

発言者	要 旨
	<p>以下の子を上げれば10点くらい簡単に上がるわけです。どういう散らばりになっているか私のはっきり情報を持っていませんのでわからないんですが、その辺もうまく使ってICTを使いえば結果が出るんじゃないかなと私は希望的に思っていますので、頑張っていたきたいと思います。</p>
教育長	はい、ありがとうございました。はい、竹中委員お願いします。
竹中委員	<p>私はこの全国学力学習状況調査について、良好おおむねとか、やや低いという言葉で結果が出た場合に、例えば本当に現場の先生方がどのような利用をする気持ちになるのか、児童への教育指導の充実を図るとか学習状況の改善を図るといったことが目的であるこの調査において、現場の先生方が本当に大体みんなおおむね良好なんだよってということで、この調査をしても何か新しいものが生まれないのが一番もったいないという気がしています。大体みんないいんじゃないかという中で、課題という言葉拾ってみると、例えば中学校の国語なんかで伝えたい事柄について根拠を明確にして書くのが課題、中学調査A、それからBも根拠を明確にして自分の考えを書くことに課題があると書いてありますけれども、この伝えたい事柄を明確に書くとか根拠を明確に自分の考えを書くというのは国語の究極の目的なのに、そこへ行く前に学力を上げるとか知識を増やすというところで止まっている証拠なんじゃないかなって感じがしてなりません。アクティブラーニングという難しい言い方ではよくわからないんですけども、要は自分の力でいろんな考えをもって切り拓いていくということが目的で、究極の目的であるはずなのに、知識量みたいところで止まってしまっただけではいけない。それを先生方が思った上で、もう一步、今のおおむね良好なところから一步進んでいただければ、こういう調査をやっている価値があるんじゃないかなと。そんなふうに感じました。</p> <p>以上です。</p>
教育長	ありがとうございます。幾つも今、御示唆をいただいておりますが、その他いかがでしょうか。はい、河合委員お願いします。
河合委員	<p>私はあまり平均点を上げるということを考えてはいませんが、県全体の順位からいきますと、今、竹中さんが御指摘のように、A問題の知識、いわゆる基礎的な知識理解というものが非常に低いわけです。現場ではそれを一生懸命やっていますけれども、B問題にいく前でつまづいているということは、まず先生方が認識していただきたいなと私は思うと同時に、基本的には、例えば、先程の大綱にもありましたように、個に応じた教育だとか、一人一人を生かすとか言葉で言いながら、今、浅井委員さんが御指摘の下の方の子どもたちが楽しんで学校に行って、そして楽しむだけじゃいけません、国語や算数や理科や社会の学力をちゃんと付けておうちへ帰るということを、これからの大府市として再度見直していく必要があるんじゃないかっていうのは私の考え方で、先程教育長さんの「1人の子を粗末にするとき 教育は光を失う」という言葉を、僕は南中の校長の時、校長室に掲げておりましたので、もうちょっと私どもの仕事として、子どもたちに力をつけるということ、きちっとやらないといけないかなという思いもっているんです。そうすることによって、すぐには上がりませんが、2～3年努力を続けていけば、多くの子どもたちは優秀ですから、きっと、愛知県の中でトップになり、全国でも良いところに行くのではないかと。真ん中ぐらいよりは上に行けるんじゃないかと私は思っております。</p> <p>以上です。</p>
教育長	はい、ありがとうございました。

発言者	要 旨
浅井委員	いいですか。
教育長	はい、浅井委員。
浅井委員	<p>今、竹中委員がおっしゃったみたいに、まず自分の考えをはっきり明確にできないというのは、これは小さいころからの教育じゃないですけど、よく最近若い子がかわいいとかウザいとか、ムカつくとか、その辺だけで全部済んでしまう。昔、この場で言ったことがあるかもしれないんですけど、その理由は何か。さっきの日記でも「今日は何とかでムカついた」でもいいんですけど、先生の方から、「じゃ、何でムカついたの。」ということで、今日何とかがあっただけから、かわいかったとか楽しかったとか、それをもう1段進めるように考える癖をつければ、国語の究極の目的が達成できるじゃないのかなと思いました。</p>
教育長	<p>はい、ありがとうございました。</p> <p>色々お互いの御意見に広がり、深みが増していく話し合いだなと思います。こういうことが子どもたちの中で行われていくことによって、いわゆる、見えない学力の部分が育っていくと、それが可視化していくっていう、そこにいろんなアクティブラーニングとか、このICT機器の利用とかプログラミング学習、今度また言葉として出てきましたけど、そういうところが登場してくるのかなと思いますが、いずれにしても、一人一人の子どもをどうするか。どう手をかけていくか、手間をかける、手塩にかけるとかいろんな言葉がありますが、一人一人の子どもをいかに大事にしているか、そのことが、結果として平均点を上げることになるというようなお話になるのかなと思います。</p> <p>その他いかがでしょうか。</p>
	(なし)
教育長	<p>無いようですので、分析結果をしっかりと児童生徒への指導に反映させていただきようお願いをします。各学校では、学校の実情に応じて、同様に、それぞれの保護者にそれぞれの学校の結果が配られております。</p> <p>それでは、最後に(4)その他ですが、この会議は大府市の教育を市長と教育委員会で一緒になって考え推進していく会議ですから、ここで、大府市の教育行政について、各委員の皆さんが考えてみえることや今後の話題にしていきたい事などございましたら、思うところをご自由に出していただけたらなど、今のように入っている中から一つの方向が見えてくるのかなと思いますので、どうぞ忌憚のない御意見を発言していただけたらと思います。</p> <p>岡村市長よろしく申し上げます。</p>
市長	<p>1点、先程ICTの話題がございましたけれども、今、どういう整備状況かについてたまたま文科省が最近発表いたしました。そもそも、どうして私がこういうことを知りたかったかという、9月の市議会において、大府市は今ICT教育を一生懸命やっているけれども、例えば吉田にいる東海市に委託している子どもの教育のフォローはどうするんだというような質問があっただけで、それについて教育委員会は、中学校からフォローすれば十分対応できるという考え方でしたけれども、それが発端で調べてみたんです。28年3月末現在ですから、今年度の予算措置したやつはまだこのデータに入っておりませんが、その中で2ページですけども、大府市の整備率は県内ではトップクラスなんです。それでトップは設楽とか豊根とか山間部なんですけれども、ただ、愛知県内では</p>

発言者	要 旨
	<p>トップなんだけど、全国的に見ると、コンピューターの行き渡る児童生徒数は、大体 1,800 ぐらいの自治体で 395 番目なんですね。けれども愛知県内では非常に進んでおるといふデータがございます。それで、3 ページ・4 ページの普通教室についても、まだこの時点では 60%を切りっておりますけれども、今年度全ての普通教室・特別教室に電子黒板ということで、電子黒板の整備は今年度中には 100%になると思っておりますし、それからパソコンについても、今年度小学校 3 年生以上について 2 人に 1 台の割合で行き渡るといった状況でやっています。それで、今までの計画では来年度早々に 3 億円ぐらいかけて中学生に 1 人 1 台、再来年度に小学校 3 年生以上に 1 人 1 台という計画でございましたけれども、私はこういった状況を見ながら、もう少し今の状況を来年度は続けていきたいなということで、私の考えでは、この 2 人 1 台の体制を来年度も続けていきたい。そして 3 億円の費用は学校施設の整備に充てていきたいと思っております。たまたまある中学校を見たんですけど、教育環境を見ると非常に子どもたちにとってはトイレを見ても、プールを見ても大変気の毒だなというふうに感じております。そういう意味で、コンピューターは横の導入状況を見ながら今後進めてまいりますけれども、それと共に、学校施設の整備、トイレとか、それから校舎とか、プールとか、グラウンドの遊具が壊れたままにしてある物もたくさんありますので、そういったところに力を入れていきたいと考えておりますので、ぜひそれについては御理解いただきたいと考えております。以上です。</p>
教育長	<p>はい、ありがとうございました。 岡村市長にお聞きになりたいこととか、ありましたらお出しただいてと思うんですが、よろしいでしょうか。はい、浅井委員。</p>
浅井委員	<p>はい、我々教育委員、去年、おとしですか、倉敷、いわゆる ICT が進んでいるところに視察に行つて色々お話を伺ってきたんですけど、そこでは現状を見たら、いわゆるデジタル教科書を 1 回全部入れたと。でも、維持費に結構お金がかかるから、今は 1 科目が入っているか入っていないかくらいで、予算があまりおきなくてどうなるかわかりませんというような状況でしたので、途中でしりつぼみになってしまうと大変だと思いますから、できるだけ必要のないところの予算は削って、必要のあるところには、例えばデジタル教科書が維持費が必要なんだったら、そこは削らないけれど他は我慢するという、予算も限りがあると思いますのでメリハリをできればつけていただきたいなと思います。</p>
教育長	<p>はい、市長よろしいですか。</p>
市長	<p>はい、了解いたしました。あまりにも急激にパソコンとか電子黒板等を入れ過ぎて、私は現場が戸惑っているんじゃないかという気がしております。そういう意味で今の状況をもう少し続けてもらって、今後さらにステップアップしていきたいなと考えております。</p>
教育長	<p>はい、ありがとうございました。その他いかがでしょうか。 日頃の学校教育等、地域の教育等でお考えのことも御披露いただいてもいいかなと思うんですがいかがでしょうか。よろしいでしょうか。</p>
市長	<p>今日はあまり時間がございませんので、県の方では先生の多忙化解消ということで検</p>

発言者	要 旨
	<p>討されていると思うんですよ。是非そういったデータもいただきながら、大府市としても先生の多忙化解消についてできることがあれば、こういった会議を通じて検討したいと思いますし、市で予算化すればそういった解消ができるんだったら積極的に対応して、それが、先生が子どもたちと向き合う時間を多くするというに、子どもたちのためになると思いますので、是非また次回以降、必要な資料も提出していただきながら、議論をしていただいて御意見いただきたいなと思っています。</p>
<p>教育長</p>	<p>はい、ありがとうございました。 現場出身の私としては大変ありがたい思いです。小学校は学校にお邪魔すると職員室に誰もいないような状況があります。帰っていくのは夜8時、9時、10時というような状況もあります。夕方などは、今は保護者への御報告をきちんとしないと保護者からうちの子はどうでもいいんですかって逆に連絡をいただくことになるので、その前に御連絡をとということで、夕方の職員室は電話がにぎわっています。回線が限られていますから自分の携帯で家庭へ電話をしている、やむを得ないことで、そういう状況もあります。そういうことを全て含んで多忙な学校現場という状況がありますので、また実態を御報告しながら、解決策がどこまで行くかわかりませんが、少しでも市として考えていただけたらそんなありがたいことはない、そんな思いでいます。 ありがとうございました。その他よろしかったでしょうか。</p>
	<p>(なし)</p>
<p>教育長</p>	<p>ありがとうございました。質疑応答につきましては、ここまでにしたいと思います。事務局から何かありますか。</p>
<p>学校教育課 庶務施設係長</p>	<p>次回の日程につきましては、後日調整をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。以上です。</p>
<p>教育長</p>	<p>はい、ありがとうございました。 それでは、以上で本日の会議を終わります。熱心に御議論いただきありがとうございました。</p>